

学内外協働による、社会で活躍する理工系博士人材の育成機能強化

— 自立する博士人材育成プロフェッショナル・プログラムの構築と実践 —

課題

課題と対応①

理工系博士課程入学人数は減少気味であり、博士号取得者数は横ばい

→ 魅力的な博士教育による日本人入学者の確保

課題と対応②

企業人に占める博士号取得者の低割合

→ 大学院生が博士号取得後に企業キャリアへの道筋
→ 現役企業人の学び直しによる博士号の授与

課題と対応③

大学既卒は修士課程に興味はあるが、費用や勤務時間等が進学の際の障害

→ 期間短縮や長期履修制度による費用軽減
→ 各々の勤務時間に合わせた個別履修計画

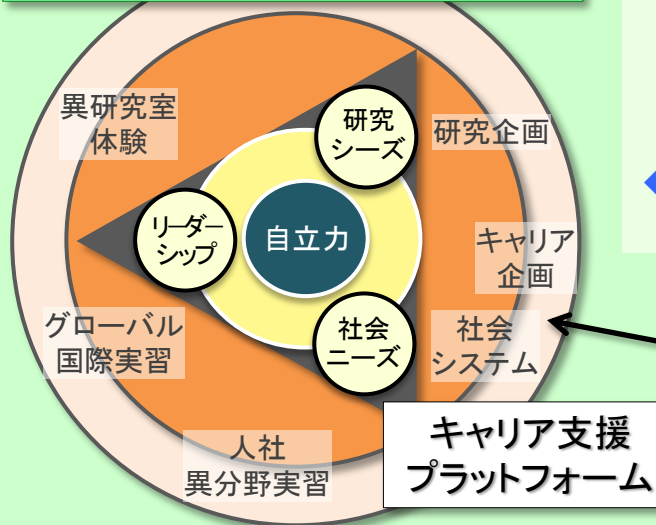
目的

研究者養成から社会で活躍する理工系博士人材育成へ

総合力・企画力・統率力を涵養

(学士・)修士・博士一貫コース

自立する博士人材育成 (15人/年)
プロフェッショナル・プログラム PP



◆ イノベーション創出人材の効果的な育成

◆ 日本人学生・留学生・社会人学生の混合教育の強化

1学年当たり的人数の目安(人)

	日本人	留学生	社会人	合計
	22	22	12	56
(PP)	(9)	(3)	(3)	(15)

◆ Project Based Learning 型 (PBL型)実践教育

企業人実務家教員3人の新規登用(混合給与)等

企業人枠(入学定員5人)

効果

・自立力(総合力・企画力・統率力)を備えた社会で活躍する理工系博士人材の輩出

・企業、行政、研究など多様なキャリアパスへの対応

・ポスト獲得のための国際競争力向上

・企業人の学び直し機能の強化

理工学研究科

社会人の学び直し機能

地域活性化機能

学内外協働

社会・世界で活躍するための文理融合教育

人文社会科学研究科

理工・人社協働プログラム

双方向コミットメント

専門性深化と実践課題体験の双方向教育(産官金への教員・学生の派遣)

産学金協働プログラム

産・官・金融界